

## 第4回 鹿部町総合計画策定審議会議事録

開催日時 令和4年12月13日(火) 17時32分～19時22分  
開催場所 中央公民館 大ホール  
出席委員 17名(吉康郎会長、松本善一副会長、千葉光義委員、高橋茂夫委員、松本大樹委員、中村綾乃委員、若山唯敏委員、能戸仁士委員、平井悦子委員、金子ふさえ委員、佐々木博史委員、矢野和成委員、松本広美委員、石割恒彦委員、内山勝之委員、内田隆委員、原田光雄委員)  
欠席委員 3名(松川正委員、山田大春委員、吉英樹委員)

- 1 開会
- 2 議事

(資料1 第6次鹿部町総合計画基本計画(素案)(教育)について質疑)

### 委員

まずは教育各課の課長さん、部長さんはじめ、皆様素晴らしい資料をありがとうございました。きちんと読ませていただきました。まず教育なのですが、4点お話ししたいことがあります。まず1-2と1-3。生涯教育とか文化振興とかがありますが、そこにオンラインのことが一切ありません、これは全く理解できないのですがなぜですか。町としてはDX、デジタルを伝えているはずなので、教育にオンラインは常識だと思います。世界的には。それなのに全く言及がないのはどのように考えているのか教えていただきたい。これが1点目&2点目です。

次に2-1、文化芸術への関心を促しということですが、いわれている施策というのは素晴らしいと思うのですが、私はリゾートに移住してきた者ですけれども、実際活動としてみえるのは地域おこし協力隊の方の活動です。例えばこの間の日曜日、町長も来ていましたけれども金森ホールで素晴らしいイベントを、文化芸術のことをやっていました。新しく入った協力隊はバレエ団の団員になられて、道南地域でしっかりされていることというのが一切ここに書かれていない。どうして書いていないかというのは理解できません。一切書いていないのは知らないのか、もしくは役場でいわゆる地域おこし協力隊を含めて色々な活動を鹿部ですとか、道南地域でやられているので、そのようなものの連携ですとか、支援ですとかをどのように考えてらっしゃるのかをお聞きしたいというのが2点目です。

3点目ですけれども3-1のスポーツについても同じことがいえると思います。これも地域おこし協力隊が自転車ツーリズムの推進協議会を道南で発足させて、スポーツ&観光で色々なイベントをされています。役場にチラシがあることは知っているのですが、そのような大きな広がり、スポーツ&観光で鹿部町に健康ですとかを考えながら、かつ、お金が落ちる仕組みを考えてらっしゃる方がいるので、そのようなものをこういった町の総合計画の施策に入れていかないというのが全く理解できません。ぜひその点について何を考えてらっしゃるのかというのを教えていただきたいです。

あと、話をする前に教育の方が立っていただかないと、どなたに言えばいいのかわからないの。どなたに向かって話しているのかわからないのですが、教育の担当の方はどなたですか。お2人回答お願いします。

## 事務局

まず1つ目のオンラインの関係でございます。実際にこれは文化に限ったことではなく、鹿部町が今、DXを進めるということで、率先してデジタルを活用していかなければならないというものでして、中にはSNSの活用などということで記載させていただいたのですが、もう一步踏み込んだ形でということで、今ここで入れますということは僕も言えないのですが、前向きに検討していきたいと思っております。

2つ目の地域おこし協力隊の関係でございますが、申し訳ございません、こちら私の認識不足というか、理解してなかったという部分もございましたので、この辺につきましても、関係課と協議しなら、スポーツの関係もそうですけれども、その辺も含めて前向きに入れていけるように協議していければと思います。

## 委員

ありがとうございます。素晴らしい回答、ぜひよろしくお願ひします。今回は入っていないけれども、総合的に人口減少問題を考えたときにどうしても外からの人を増やす、あとは岸田総理はじめ菅さんとかもおっしゃっていましたが、いわゆる途中で寄ってくれるような人口も増やす、そういった施策を考えていくなれば、外から人生をかけてやってきてくださっている方の活動というものも町として積極的に支援していくべきだと思うし、逆に見下ろしてPRにするくらいというのが必要だと思っています。小耳に地域おこし協力隊の悪い噂も聞きましたけれども逆にお聞きしたいです。5人か6人やって1人失敗したら、もう二度とやらないのですか。皆さんは自分の子どもに1回失敗したらもう二度とやるなど言うのですか。100人とか地域おこし協力隊を集めたら1人、2人失敗する人がいて当然だと。多分皆さんも公務員の中に入られたときに、公務員の仕事で新入社員100人もいたら1人、2人失敗するというのは当然だと思うので、5人か6人にとって1人目の失敗が出てしまったのはたまたま運が悪かったと思って、積極的に外からの人口を増やすためにもああいっただ方々をウェルカムして、東川町は全国で4700くらい自治体があると思うのですが、そのうちの1%を地域おこし協力隊、全国の地域おこし協力隊の1%を1つの自治体でやっています。100人弱、毎年います。そのくらいの勢いでとるつもりで、逆に東川町のことを言っていましたけれど地域おこし協力隊を含めて移住者がたくさん来るので、8年、10年経ったら移住者という言葉がなくなったと。もう移住してきた人がその住民、住人で浸透しているので、一緒になって町のことを考えたり、こういう風になったりしてくれているということなので、ちょっと総括的な話にもなりましたが、最初にきちんと私の考えを伝えておきたいので、このようなお話をさせていただきました。よろしくお願ひします。

## 委員

4番の学校教育について質問したいのですが、よろしいでしょうか。とても良い計画だと思うのが「学び場」。これは要するに、鹿部町がお金を出して無料で小中学生が「学び場」を利用できるという素晴らしい案だと思うのですが、始まりは地域おこし協力隊がつないでくださるということで、それもいいのですが、3年間で地域おこし協力隊が終わりますよね。3年後はどうなるのかなというのが1つ質問です。

2つ目は小中学校の一貫性。つまり、隣の七飯町で、大沼地区で小中一体化していますよね。ここで施

設の関係で、古くなってきたら考えたいって言うのだけれども、そうではなく小中一貫が良いからやるって方にはいかないのかなと。前後しているのではないかという気がしているのですが、小中一貫について質問したいと思います。

## 事務局

私の方からは、「しかべ学び場」について、今後どういったことを考えているかという部分でご説明させていただきます。今年からですけれども「しかべ学び場」ということで、数学・算数と英語に関して地域おこし協力隊の方2名にお手伝いしていただきながらスタートしました。スタート当時よりも年々評判も良くなってきて、子どもたちもどんどん参加しているような状況でございます。

まず1年目、我々も手探りの中で始めたものですから、どういったことになっていくのかという部分もあったのですが、そういったこともありまして、今後3年間の事業を行っていきながら、家庭学習習慣の定着、あと基礎学力の向上など、その辺の成果も検証しつつ、今後の方向性については検討していきたいと考えています。

その中でこのまま良い事業だということ継続していくということであれば、今後考えられる一つのこととして、現在地域おこし協力隊でやっていただいている方に3年終わった後に起業していただいて、町が委託、もしくは参加者の保護者負担とかそういったことも考えながら、継続していくという方法。あとはその方々が、辞めますということであれば、新たな協力隊を募集して継続してやるという方法。あとはそういった方を募集したけれども来ないということであれば、さらには民間とかを考えながらやるという方法もあるかなと考えております。

今現在、まだ始まったばかりですので、今後あと2年間でどういった方向でやっていくかという部分を踏まえながら、検討していきたいと思っております。以上です。

小中学校の一貫教育の方のお話についてです。鹿部町としましてこの数年間、一貫教育について幼小中1校ずつということで、大変やりやすい環境であるということで、勉強をして参りました。

結論から申し上げますと、近々方向性について、しっかり出したいと思っております。遅くとも今年度中には、義務教育学校にするのか、小中一貫教育にするのか、はたまたこのままでいくのかというのを結論出したいと思っております。もう少しお待ちください。

## 委員

8ページ、9ページ、10ページに関わって、低減や問題点を指摘したいと思います。

まず8ページ(3)の児童生徒一人一人の確かな学力の向上を目指しとありますが、その以下ずっと読みますと、ここに学力観が出ていないのでほとんど教育機器に関わって羅列されております。11月の初めの新聞によりますと今年度の学力検査、いわゆる文部省の学力検査、その結果が檜山と渡島の部分について報道されておりましたけれど、それによると檜山は小中学校とも全国を上回っています。学力の部分で。ところが渡島はその逆で、小中とも国語、算数・数学、理科、かなり下回っております。特に算数・数学の部分では、小学生では4ポイントかな、中学生では5.8ポイントか。という数字が出ております。そういう学力の面で、考えなければいけないのに8ページについては全然触れられていない。私は教育長の教育行政執行方針を読んだことがあるのですが、そこの中には教育長の教育観、指導観が具体的に書かれています。「できる・わかる」という表現がありました。そういう意味で教育長の教育観、

指導観が反映されるように文言をもう一度整理されたいと思います。

それから、算数・数学の分野で分析、考察されていると思いますが、どこの部分が弱いのか、文章題なのか、分数の計算なのか、図形なのか、または一次方程式、二次方程式、これがわからないのかどうか、これを具体的に教育現場で考察、分析をして、それを教育委員会がちゃんと把握してほしい。このように考えております。

それから、8ページの下段の方に施策を進める内容、これ「せさく」ではなく、「しさく」と読みます。①指導体制の強化に向けた人員の確保とありますが、地域における教育力をもっと真剣に考えた方がいいと思います。私の経験では、コロナの前に、夏休み、冬休み、小中学校で算数・数学の指導をお願いしますということで学習ボランティアが集まったことがあります。かなりの人材がいます。算数・数学の指導をできる方が。それを上手に活用したらいいと思います。

それから9ページの中段のあたりに、不登校、いじめには云々とありますが、不登校は全国で今24万人、いじめはもうご存じのとおりでございます。それからその次大事な引きこもりが抜けています。引きこもりは全国で115万います。それが、もう1つ抜けているのは、学級における発達障害、これが各学級に、大学の教育学者によると1%いるのではないかと。30人学級だったら3人はいるかもしれない。こういうことを聞いております。発達障害というのは、一見、見た感じは普通の児童生徒に見えるのですが、実は目を離すと動きまわります。私の経験では、じっとしていません。教科の面では数的な認識や理解力が欠けているのですが、読解力があります。本はちゃんと読めます。そういう教科の部分によって、発達の左右に揺られると。それから、私の担当した子どもは、国語、算数はダメだけれども、相撲に関してはものすごく興味を持っていて、あの力士はどこ部屋で、どこ出身で、体重は何キロ、身長は何センチある。色んな力士の名前を挙げてくれます。ところが算数だとか、国語だとかはからっきしなんです。そういう発達障害の児童生徒が各学級に1割はいるだろうと。そのことについて、教育の場ですから文言の整理を追加するなり、お願いしたいと思います。いじめの次に引きこもり、発達障害というのが必要じゃないかと思えます。お願いします。

それから、10ページの教職員のことについてですが、いわゆる働き方改革。このことで、教職員で精神障害といいますか、メンタルの部分、メンタルヘルスというのですか。このところ各地方で先生方がかなり急速しているという話でございます。そこで本町はどうなっているか教えていただければと思います。

それから合わせて、教職員の勤務条件に関わってですね。いわゆる残業です。この実態。健康問題と関係ありますので。どんな実態になっているのか心配しております。

それから教職員の研修に関わってですね、教特法第19条、20条の2項に関わってですね、夏休み、冬休みの教職員の勤務について、自宅研修、郊外研修、これをフルに使った方が先生方のためになると思います。元校長やっています、こういうところ重要視して先生方にはゆっくり夏休み、冬休み、自宅で研修やってくださいと。こういう指導をしてきた経験がございますので、その辺どうなっているかよろしく申し上げます。以上です。

## 事務局

今、何点かありました。急いでメモをしたのではっきりと覚えているか自信ありませんけれども、回答させていただきます。

まず1点目ですね。私の執行方針も見ていただいたということで、私の「できる・わかる」という教育観をおっしゃっていただいて大変感謝しております。その辺はですね、確かに学力向上の部分についても執行方針の中ではうたっているのですが、確かにこの中では弱いかなという部分もありますので、少しそこは検討したいと思います。

それから学力テストの関係でございます。今年度の学力テストの結果も出ております。あまり細かい話をすると長くなりますので、簡単にお話させていただきます。小学校については、国語は結構良かったです。ただ、算数の方は良くなかったです。逆に中学生は算数が良くて、国語の方が良くなかったと。その辺は小学校から中学校に上がって、それが逆転しているのがどうなのか。当然学年ごとによって違いはありますので、必ずしもそこは比例していかないと思いますけれども、しっかりとその辺も分析しながら学力向上につなげて参りたいなと思ってございます。

それから、地域における教育力のお話がありました。私も今後、今まさしく一貫教育について検討している最中ございまして、その目的といいますか、このようにしたいという考えがありまして、それは地域が大変大きく関わっておりまして、地域に貢献できる学校でありたい。また、地域の皆さんで子どもたちを育てると。そういう学校にしたいなという思いがありますので、地域との連携等を今後やっていきたいなと思っております。

それから、9ページの不登校、いじめ、引きこもり、それから発達障害の部分でたくさんお話がありました。私も今一番懸念しているところが、不登校の部分でございます。いじめはゼロではないですけれども、たまに1件ある、そういうレベルではございますけれども、危惧していないわけではございませんけれども、不登校の方がやはり今おっしゃった通り、2012年では12万人だったのが、今24万人に倍増している。鹿部も全くその通りで、数年前まではほとんどいなかったのが、このコロナをきっかけにどうか、時期的にはそれをきっかけに数人出てきました。今一番、そこが危惧しているところでありまして、私もしっかりそこの方は対応していきたいと思っております。

最後に発達障害の方のお話をたくさんしてございました。そこは、通常学級、そして特別に支援を要する学級、または両方を行き来できる通級という形で、人としての支援の方もしっかりして、子どもたちをバックアップしていきたいと、現実的にやってございますので、これからも続けていきたいなと思ってございます。

あとは働き方改革の方でございますけれども、勤務条件、残業の話も出てございました。残業については、一度広報しかべの方に掲載しましたけれども、一昨年から去年に比べてですね、残業時間は働き方改革を進めたおかげで、減ったのは事実でございます。

そして教職員の研修の関係ですね。これはちょっと検討してみたいと思います。以上で終わります。

## 委員

ありがとうございます。今の4点コメントをしたいと思います。まず小中一貫、北海道には札幌市立開成高校というのがあって、この間の1月に札幌日大が北海道2校目ですけれども、いわゆるID、国際バカロレア認定校というのがございます。IDの中心になっている高校の先生は、私の話が聞きたいということで、私にコンタクトとってきたので紹介できますので、もし子どもの心を含めて育てる、世界に通用するような子どもを鹿部から育てていきたいということがございましたら、おっしゃってください。

2点目は、算数強い老人がいる。老人って言っちゃいけないですね。リゾートの方にいるということで

すけれども、当別町にそのような方がいて、この間まで町長をやっている、80になるので引退しましたけれども、当別町の方に引っ越してきて、1期町議会議員やった後、町長を2期務めました。彼が考えていたのはいわゆるリゾートには知見のある方とか、色んな方が東京とかから、もしくは札幌から来てくださると。その方々を、いわゆる引退した方々を学校の教育ですとか、もしくは企業の誘致ですとかを含めて色々なところに使っていきたい。それによって町を移住者と一つにしていきたいと考えてらっしゃったので、もし何か言っていただければ当別町はご紹介できます。

3つ目の発達障害ですけれども、ご存じかもしれませんが、札幌には麦の子というテレビの取材ですとか、新聞の取材ですとかもいくような非常に有名な認定こども保育園がございます。実は私は25年前の第一期のボランティアでして、当時は社員が7人くらいだったのですが、この間の春に理事長、創業者を訪ねたら、社員が450人いると。一つの東区の街が住民とともに発達障害の子どもたち、もしくはそのご両親含めて育てていると。非常に成功事例となって、テレビの取材を受けていますので、もし視察に行きたければ札幌市なり、理事長の北川さんを紹介しますので、言ってください。

最後に発達障害から特異な子がいるということですが、もし北海道には前、盛田さん、今は伊藤さんというもしかしたら大リーグにいけそうな素晴らしい特異な子がスポーツの世界でいますので、勉強の世界とかで特異な子とかいたらぜひ紹介してください。よろしくお願いします。以上です。

## 事務局

大変ありがとうございます。先日、私も札幌の方で教育長会議ございまして、そちらで当別町の教育長さんともお会いして、今後の私の今の考えを伝えてですね、お話を結構な時間させていただきました。これからもし、一貫教育に向かっていくことがあれば、当別町のご協力をいただくこともあるのかなと思っております。それ以外についても、委員の経験を参考にしたいなという思いもありますので、その節はよろしくお願いします。

(資料1 第6次鹿部町総合計画基本計画(素案)(保健・福祉)について質疑)

## 委員

質問と感想を述べさせてください。この間、ダイワハウスの7、80代の痴ほう症の防止のサロンというのを地域おこしの方含めて色んな方が主催されて、そこに参加してみました。ゆとりという料理店の近くにいる7人くらい兄弟がいる女の子も来ていて、非常に子どもとお年寄りの方が一緒に歩いてみることとか、お手伝いをしているのが非常に良いと思いました。先ほどの教育に絡みますけれど、こういったものもオンラインでできますので、ぜひご検討ください。この間、マサチューセッツ工科大学のお話になりますけれども、ベンチャーコンテストの日本の主部で審査した方の一人が普通の看護師の方だったのですが、ツボかるたというのを作って販売されていて、お年寄り向けに。今はそのオンラインのいわゆる老人施設での一緒に遊ぶような教育、日本ではまだ可愛げなダンスしかないのです、そんなのが。オンラインでご老人の方が一緒に遊べるみたいなのをやっているのです、もしご興味があったら言ってください。

6-1に関してはデータ分析とか、PDCAとかをおっしゃっているのは非常に有効で、期待しております。あと、6-4に関しては、町内にもご存じかもしれませんが、大学病院の先生ですとか、引退されて

病院に勤務されている方とか、そういった方もいるので、そういったもののデータベース化は欧米では常にされていますので、算数が得意なご老人がいるように引退したお医者さんですとか、歯医者さんですとか、脳外科の先生とかがおられるので、そういった方々のコネクションというか、何とかマップみたいな、いわゆるオフィシャルな救急マップじゃないけれども、いざとなったときに頼れるような救急マップ、頼れるお医者さんの先輩の方々のマップみたいなのを考えたり、作られたりすればいいと思います。

あとは先ほど申しました通り、麦の子、札幌の認可保育園の麦の子は非常につながることがあると思いますので、8-2、8-5、9-2とかはご興味があれば、紹介しますので、理事長、創業者を紹介しますので、おっしゃってください。

あと、7-3に関しては、補助金で利用できる介護ロボットというのもありますので、色々検討されるというのではないかと思います。マイクロソフト中国の社長が、今私にアプローチしていて、AIのロボットベンチャー、この間、ディーンフジオカと共演していましたけれど、そういった介護ロボットみたいなことも参入していて、彼はもう北海道庁とも話をして、そこに30くらい介護ロボット系の補助金が受けられるリストがありますので、そういったことも推進していくというのではないかと思います。以上です。

## 事務局

高齢者の認知症サロンということで、陽だまりサロンということで子どもたちが認知症のキッズサポーターになっておまして、そちらのひまわりレンジャーという子どもたちが高齢者と一緒に活動している状況があります。こちらについては、ボランティアの方が一生懸命中心になってやってくさっている取り組みで、私たちの方はこの取り組みについて、一緒に考えたり、支援したりする立場で活動しておりますが、ただいまご紹介のありましたオンラインを使って新たな取り組みの活用ですとか、例えば、お医者さんたちですね、リゾート地区にお住まいのお医者さんたちの医療の社会資源ということでのデータベース化、障害者の部分の取り組みの情報提供、介護に関しましては先進的な介護ロボットの導入など、色々情報提供いただきました。これらについて、私の方でもまだまだ情報が不足している部分もありますので、このご意見をいただき、持ち帰り、色々検討させていただきたいと思います。ありがとうございました。

## 委員

高齢者の福祉について、まずはシルバーカレッジなのですが、とってもいい活動を今までずっと続けてきたなど。コロナの関係で3年ほど中断しているようですが、早く復帰してほしいな。このコロナに対してこの後、どう考えているのかというのが一つ聞かせていただきたいな。

2つ目はその下にあるコミュニティカフェですが、町長の発案で始まったようですが、地域おこし協力隊の担当の方も来ているようですけれど、実際に人を集めたり、PRっていうのは役場の職員がやっていただかないとなかなか集まらないし、進んでいかないと思います。今どこの分野でやっていただいているかわからないのですが、役場の縦割りをとって、役場の皆さんでコミュニティカフェにたくさん人が集まるような施策を相談してほしいな。実際やっているのかな。それを聞かせてください。以上2点です。

事務局

私の方から高齢者カレッジの関係でございます。言われた通りですね、ここ2年、3年はですね、コロナで高齢者カレッジ中止しております。いつまでも中止というわけにはいきませんので、今回ですね、高齢者カレッジじゃないですけど、文化祭、コロナ対応ということでミニ文化祭というところで作品展示や芸能発表やっております。人数制限かけたりとか、都度換気して人を入れ替えたりということで、コロナに対応したやり方というものを、今後ありますので、それら十分踏まえた上で、来年度以降状況はまだわかりませんが、一応そういう形で進めていければなと思っております。

委員

実際に函館とか七飯とか、もうどんどんやっていますよ。それを見て遅れないようにお願いします。

事務局

わかりました。

事務局

私の方からコミュニティカフェのことについてお話させていただきたいと思います。現在、コミュニティカフェは地域おこし協力隊が中心になって、様々なイベントを打って事業を企画していただいております。毎月、担当課である保健福祉課と協力隊の中でミーティングを行い、どういう事業をするか、やっていく上での課題をどうやって解決していったらいいのかお話をさせてもらっていますが、今出ましたように人を集める、どうやってコミュニティカフェを利用していただくのかというのは、私たちの中でも課題となっております。先ほどお話がありました役場の縦割りを見直して、役場全体で地域の方が出向く場所、コミュニティカフェがそうだと思うのですが、そちらの方にどうやったら来ていただくのかという部分については、私の方でこうしますというのは、この場でお話できないのですが、いただいたご意見を持ち帰りまして、どのようなことが考えられるのかということにつきまして、検討を進めて参りたいと思います。よろしく願いいたします。

(資料1 第6次鹿部町総合計画基本計画(素案)(生活基盤)について質疑)

委員

土地利用についてですが、国が定める5つの区分ということで農業地域、森林地域、自然公園地域とかあるわけですが、私の知る限りでは土地というのは、都市計画法に基づいて分類があるかと思うのですが、鹿部には都市計画法に基づく区分というのはないのではないかと。無指定区域ではないかと思うのですが、その無指定区域の中で5つの分類をされているのでしょうか、それとも都市計画法の中に5つの分類があるのかどうか聞きたい。

それからもう一つは、私も長年鹿部に住んでいるのですが、どこにでも家が建つ感じがします。ということを考えて、鹿部には都市計画法上の都市計画はないのではないかと思います。無かつたらないで都市計画上の区分分けを考えているのか、考えたけど断念したのか。お聞きしたいと思います。



事務局

ただいまのご質問で国が定めた5つの区域はどうゆうものなのかというお話だと思うのですが、これは国土交通省の方で定めたものになります。それで鹿部町には農業地域、森林地域、自然公園地域の3つの区域が指定されています。もう一点の都市計画区域のお話ですが、都市計画区域につきましては、北海道が指定する区域になります。指定要件の中で、人口が1万人以上の町村とか、中心市街地の区域内の人口が3千人以上とかの要件があります。こちらの要件を満たしたうえで、北海道に区域指定の相談をして、北海道が区域を指定する状況になっています。ということでございますので、今のところ都市計画の要件にかなわないということなので、区域指定の要望についてはできない状況となっております。

委員

都市計画の件は分かりました。ということは、都市計画に関わらず、この5つの分類というのは国で法律や省令があるのですね。都市計画法に関わらず5つの分類があるということですね。

事務局

そのとおりです。

委員

28ページの道路の関係ですけれども、施策を進める内容の②に道道の整備や改良の要請と書いています。そこに含まれていると思いますが、ぜひ具体的に道道大沼公園鹿部線の迂回路、雨がある程度降ったら通行止めになっちゃいますよね。今改良しているみたいですが、時間がかかってでも粘り強く、具体的に迂回路のことを記述して呼び掛けていくことが必要だと思いますが、どうでしょうか。

事務局

道道の迂回路を盛り込んだ方が良いという話ですけれども、こちらの方は私個人で決めることができないものですので、持ち帰って検討させていただきたいと思います。

委員

応援の意見です。30ページ公共交通。私たちは今車で行き来していますが、車に乗れなくなった時が心配です。私はしかバスもモーモータクシーも利用しています。大変難しい作業だと思いますが、これを満足できるように頑張ってください。応援です。よろしくお願いします。

委員

先のコメントに追加ですが、日本の法律も絡むもので、乗り合いタクシーとかでいわゆるウーバーというもの。本業はもともと乗り合いタクシー、個人が勝手に乗り合いして、1回500円払うのが世界中流行っていて、その子会社がウーバーイーツとって私の知人のユキコという女性が社長をやって、日本で成功したのですが、本来は乗り合いタクシーのウーバーなので、日本では白タクのようなもので厳しいと思うのですが、町の中だけで町の特別条例ができるのであれば、町の中心にお年寄りが動きやす

い時に、1回500円とかで近くにいる人に乗せてくれませんかというシステムとしてあれば良いのではと考えました。15の2の北海道新幹線の延伸のことですけれども、路線の廃止なのか維持なのかここには書いていないので、現在の町の考えというものを明記した方が良いのではないかと思いました。一方で先週ですが、JR北海道は札幌延伸を数年、5年10年延びるということを言い始めています。そうすると投資をしなければいけない期間が生まれるはずなので、このリスクヘッジということで考えて欲しいと思いました。以上です。よろしくお願いします。

#### 事務局

地域交通の関係で回答させていただきます。委員からぜひ頑張ってほしいということで、応援されました。コミュニティバスを統合したしかバスとデマンドバスを運行させていただきました。まず使い勝手については、課題があるということで、これから改善しながらより使いやすい交通に努めていきたいと考えていまして、総合計画の中ではあえてこういう記載のままで良いのではと考えています。また、委員からありましたウーバー、乗り合いの運行ということで、事業者ではなく一般の方が有償でということですが、実際鹿部町は数年前までは交通空白地域ということで、路線バスしかなく、ハイヤーもないという地区で、社会福祉協議会の方が自立ホームヘルプ事業で高齢者の有償運送をやっておりました。ただタクシーの事業者が鹿部町に入ったという部分と、デマンド交通を実施したということで今空白地ではなくなったということで、国の法律で今の白ナンバーでの有償運行というのはできない地区になっていますので、それらについては難しいと担当は考えています。ありましたと、並行在来線の関係で、今の状況と今後町としてどうしていくのかということを経済計画の中に記載した方が良いのではないかと提案でしたが、これについては現在渡島ブロックの沿線自治体による協議会を設置しまして、意見交換しています。長万部町についてはもうすでに撤退すると意思表示していますが、そこ以外の自治体については、足並み揃えてやっていこうということになっていますので、今の段階で総合計画の中に記載することは難しいので、少しあいまいな記載方法にさせていただいています。新聞報道で工事費等の関係で2030年の開業は難しいとされていますが、協議会としては2030年の5年前までに方針を出すということで進めていますので、もう少し時間が経てば、バス転換だとか第3セクターで運行するという情報を町民に問かけるといことを考えているところであります。以上です。

#### 委員

2030年の5年前ということは2025年なのですが、もしJR北海道が言っているとおり3年から5年、下手したら10年延びた場合にも、2025年に決めるという方向性ですか。

#### 事務局

その方針でがんばっています。もしかすると、伸びた場合、決断が伸びる可能性もあります。ただ、早く方針を出したいと協議会の中で進めています。

#### 委員

30ページの(2)です。鹿部駅のことを書かれています。修繕を重ね施設を維持していると。人口減少により鉄道利用者は減少していますが、本町の玄関として、鹿部駅の環境維持に努めていくことが

必要ですということなのですが、実際役場の方で、維持管理されていますか。何かやっているのでしょうか。数年前まではあるグループが花を植えていたのですが、高齢化とともにそうすることも難しくなってきた、現在はそういうことをやっている形跡が見受けられないのですが、町の方で何かやっているのですか。

#### 事務局

委員のご指摘ですが、JR鹿部駅については、管理はJR北海道で管轄が大沼駅なのでそこが管理しています。鹿部町については、企画振興課の方で地域交通を担当してまして、定期的にパトロールしています。その中で、修繕が必要なところだとか悪い部分を発見したときには大沼駅に連絡して早く修理修繕してもらうようにしています。以前ボランティア団体で駅の線路と駅の間を毎年植えて綺麗にしていたのですが、お話しされたとおり高齢化が進んで昨年度、団体の代表者から出来なくなりましたと申し出があり、現在は行われていません。当然ここに書いていますけれども、鹿部駅については、本町の鉄道の玄関になるので、環境整備などについては課題だと思っています。綺麗にするだけとか草刈りだとかはJR任せにするのではなく、町の方でやっていたかなければならないと考えていますが、あえて総合計画の中に詳細を記載するのではなく、どちらかというと個別計画や通常業務の中でやっていきたいと思っています。

#### 委員

こういうことが書かれてしまいますと、冷めた気持ちになったので、お尋ねしました。何かの形で維持をしていくと考えて良いのですね。

#### 事務局

そのような認識で良いと思いますが、記載の部分で冷たいということで、持ち帰って維持管理の表現について、書き方を変えて次回の審議会の基本計画案の中で、もし修正が出来れば直したもので提案したいと思います。

(資料1 第6次鹿部町総合計画基本計画(素案)(生活環境)について質疑)

#### 委員

46ページの下の方に救急救助に必要な人員の確保ということから、施策の中に救急救命士の養成、採用、救急隊員資格者の確保となっていますが、ここに鹿部町だけでは出来ないと思いますが、七飯町と北斗市と連携しながら、ぜひ救急救命士の処遇を改善するという方向性を出してほしい。なかなか人が集まらない中で、資格を取るにも自分で負担していると聞いたことがある。今日は署長も来ているので、3町連携してぜひ進めて欲しい。そして良い人材を集めないといわぬ高齢者は不安ですのでよろしく願います。

#### 事務局

私も北斗、七飯、鹿部の1市2町で南渡島消防事務組合という一部事務組合でやっているところで

すが、その旨本部に会議があり次第、こちらに議員もいますので打ち合わせをしながら極力進めていきたいと思ひます。ありがとうございます。

#### 委員

39ページ(2)ポイ捨てや不法投棄をなくしの部分で、町内会単位で地域の清掃やっていますね。役場の方々だけではなく、町民のみんなと一緒にやるというのは素晴らしいと思ひます。今後も続けてください。一つお願いがあるのですが、森町の砂原地区や函館の石川地区では花壇を整備していますよね。あのような計画は鹿部町にはないのでしょうか。質問です。

#### 事務局

町内会単位でのごみ拾いや個人や団体の方々でのごみ拾いをやっていただき大変ありがたいと思ひています。砂原地区での花壇の整備の部分で、当町の考えとしては、場所がなかなか、砂原のバイパスのように植える場所がない状態。過去に針植えでやった経緯がありますので、そこを含めて今後出来るかどうか検討したいと思ひます。

#### 委員

何点かあるのですが、最初の救急救命士の件で先ほど医療の社会資源化という素晴らしい言葉をおっしゃっていたので、同じように資格を持ってなく、北大の病院とかをやめた方とか、資格がないかもしれないけれどもプロの技術を持っているという方が絶対いますので、そういう方の緊急マップや応援マップを考えていただけたらと思ひます。

#### 事務局

今です道南MC協議会というものがあまして、幹事が市立函館病院ですのでそのドクターを中心に、救命士の月2回、今はコロナで中止になっているのですが、学習会を有資格者又は普通救命士、学校で1ヶ月トレーニングしてきて修了した者に月2回道南MC協議会で講習・訓練しているのが現在の状況です。

#### 委員

ありがとうございました。他に19の1環境問題のことですけれども、食品ロスの削減ということに住民含めてぜひ明記して欲しいと思ひます。いわゆる環境の問題を解くための100の施策という世界的な明記のドローダウンというのが日本語訳されていまして、環境省含めて職員や官僚も読んでいますし、環境大臣も持っていると聞いていますが、食品ロスというのは世界第3位のCO2廃棄削減減です。いわゆるアメリカ、中国の次に多いのが食品ロスです。インド1国のCO2排出量よりも世界の食品ロスの方が多いです。日本は食品ロスが少ないと勘違いしていますが、後進国です。ごみ焼却率では、OECD平均では40%ですけれども、世界のごみ焼却率で生ごみが含まれているのが40%ですが日本は78%。OECDの中では最下位です。生ごみの焼却が多いと何が問題かという、生ごみというのは水が含まれていますので、野菜とか、それによって非常にパワーを使います。焼却炉に。それによって変なガスも出ますし、同時に焼却のパワーを使うのでCO2をますます出すというのが日本の現状です。ですので、鹿部は今

ごみの分別をしていますけれども、コンポストが絡みますけれども、コンポストも同様に OECD の平均では 40% 以上普及していますが、日本は 19% しか普及してなくて、最下位争いです。世界 30 何か国の中で。そういう現状がありますので、環境大臣含めて日本というのは中々後進国なので、進まないかもしれないけれども、だからこそこういう地方が住民と一体となって、施策が出来るという地方こそ先進モデルとして進めていってほしいと思います。それによって、色々なニュースになって鹿部は素晴らしい町だな、移住したいなと考えてくださる、東京のパワーカップルとかもいますので、ぜひよろしく願います。なので、ぜひドローダウンを図書館において欲しいというのが一つの狙いです。3 千円くらいしかなないので、ぜひ入れてください。願います。以上です。

#### 事務局

貴重なご意見ありがとうございます。当町における生ごみの現状というのが正しく把握していませんので、そこらへんをしっかりと把握しながら、当然可燃ごみというのは生ごみが多いというのは重々分かっていますので、水切りの部分とかを進めていきたいと考えてございますので、今後計画に含めていくものがあれば、検討して参りたいと思います。ありがとうございます。

(資料 1 第 6 次鹿部町総合計画基本計画 (素案) (産業) について質疑)

#### 委員

58 ページ、下の方の施策の 7 番目に前回も提言したのですが、ここ最近関係人口という言葉が使われています。この意味は特定の地域が継続的に関係のある外部の人々との交流というのが関係人口という言葉の意味だそうです。そこで、ぜひ整理して関係人口という言葉を入れて、観光振興の推進ということで進めていただければ、関係方面にアクションを起こすのに効果があるのではと考えていますので、よろしくお取り計らいの程よろしく願います。以上です。

#### 事務局

今の関係人口の関係で施策の⑦の部分、周辺自治体をはじめ広域連携による観光振興の推進のところに盛り込んではいかがですかということでございますが、ここについては、今後の取組みの部分での施策ですので、一度持ち帰りまして、今後検討してお返ししたいなと思っております。ありがとうございます。

#### 委員

産業とかベンチャーとか経営のプロなので、数が少なく多いですがよろしく願います。まず 28 の 2 の部分ですけれども、新しい取り組みを考えていこうとしているのは本当に素晴らしいことだと思います。新しい種苗ですとか、ナマコとかいろいろ考えているのは素晴らしいと思います。一応先日北海道大学の総長と副総長と函館の水産学部キャンパスのトップの方とお会いして、トップの方は何人が招いて私と 2 時間以上打合せさせていただいているので、もちろん鹿部のことは 2 時間でたくさん宣伝していただきましたが、北大水産学部はじめ北海道道南の研究機関、素晴らしい機関が近くにありまして、どのように協力していくかということを検討していただければと思います。これが 1 点目です。よろ

しくお願いします。次に28の5ですけれども、次世代の漁業を担う後継者の確保や育成は素晴らしいことですので、今回は数値がないということですので、次回期待しています。ですので、実際の卒業の人数だとか、漁業従事の割合ですとか、10年前や20年前と比べて割合が増えているのか減っているのかとか、絶対値はどうだとか、単位子どもの人数が10年前や20年前と比べて減っているから漁業に従事する次世代を担う後継者が育たないのか、もしくは減っているだけではなくて、希望する子どもの割合も減っているのか、水産業の就職率自体減っているのか、鹿部道南が減っているのかということをご検討いただければ、それに加えて、希少なアイテムとして、どのようにそういった子供たちや若者を育てるために、教育なり、啓蒙なり、広報なりしていくのかということをご検討いただければと思います。同じように漁業の面白さや素晴らしさ、あとお金にきちんとなるのかどうか、NHKのプロフェッショナルとかに出ることができそうな人がいるのかもかもしれませんが、そういったようなスターに子供たちは憧れますので、スターのような漁業の方、水産業の方がいたらそういった方を広報に使ってみてはどうかと思っています。28の6と29の2ですけれども、いわゆる水産資源をいかした商品開発や販路とかPRとかしていきまますということなので、これも同じようにチャンネルごとの数字、これは次回以降だと思いますけれども、出していただき検証していただければと思います。チャンネルというのは具体的には、店舗、直販、道の駅、オンライン、ふるさと納税、もろもろ。それぞれのチャンネルでそれぞれの水産加工業者もしくは水産業の方々がどのように売り上げをあげているのかとか、もしその中で過去3年5年伸びているところがあれば、その伸びているところはそういうところで何をしているから成功しているのか、それを発見できればその成功を行政の力で他の水産業者や水産加工業者にシェアしていただいて、持ちかけて欲しいと思います。私まだ勉強不足ですけれども、30の1のホタテの貝殻を土壌にする研究というのが、北海道大学やアメリカの大学かなんかでやっているか分かりませんが、もしあるようでしたら、そういった研究をしている方がいらっしゃれば、ぜひその方々を鹿部に連れてくるということをご検討いただければ、その際に私の名前を使っても構いませんので、よろしく申し上げます。あともう一点、33の1ですが、起業誘致ですけれどもここに書いてないのですが、もしかしたら鹿部は水産の町なので、水産業ありきで考えているのであれば、ぜひ門戸を広くとっていただければと思います。これは北大の総長だとか、東大の先生にもきちんとお伝えしていますので、いわゆる、東京にいるパワーカップル、夫婦合わせて年収が2千万円以上の夫婦の70%以上は移住しても良いと言っています。そのうちの半分は今と同じ仕事のリモート環境の世界、Zoomを含めて出来るようになったので、リモートで同じ仕事出来るなら、地方にぜひ移住したいと考えています。同じ仕事というのはアマゾンだったりグーグルだったりフェイスブックやツイッターのようなものです。NTTも同じです。残り50%の半分25%のカップルは子供を連れて仕事は変わっても良いけれどもオンラインで自分の仕事を活かせることをやりたい。だからエンジニアだったらエンジニアをやりたい。会社が変わっても良い。起業しても良い。さらに最後の25%というのが地元のために新しいことにチャレンジしても良いと思っているパワーカップルがいます。ですので、先ほど教育の部分でふれませんでしたけれども、去年おととしくらいからニュースになっているのが、厚沢部の認定保育園。東京のパワーカップルがたくさんきています。保育園子ども留学みたいな。留学という非常においしい言葉を使っていますので、そのPR効果もあると思うのですが、東京のパワーカップルというのは留学という言葉に敏感です。ですので、そういったことを考えたからこそ厚沢部の子ども留学のような良い言葉を使って集めていました。ぜひ、水産業とか地元の食材を使いたい、使って欲しいという気持ちは分かりますけれども、最初の門戸を開いて、

どんな方でも来てもらいたいと、優秀な方ぜひ来てくださいと、そしたら先ほど申し上げたとおり、残りの25%の方は地域に来てみたら地域を愛して地域の物を使って、水産業だったり農業だったりとか林業だったりとか使って起業したいという人は絶対いますから。これは地域おこし協力隊も同じだと思います。絶対に地元の産業とかを使ってじゃないと雇わないと言ったら誰も来ません最初は。ぜひまずは門戸を広げて企業誘致や優秀な人たちの誘致というのを盛り込んで欲しいと思います。今後の10年20年のためによりしくお願いします。

#### 事務局

課内に漁業振興室という室を設けています。漁業に関する部分については後ほど室長の方から説明させていただければと思います。私の方ですけれども、31の1ホタテの貝殻の利活用。ホタテの貝殻は大量に出ます。それで大きな問題になっていまして、それを回避するために企業を誘致してうえで再利用できないかということいろいろと頑張っていたいております。ただ、需要に限りがあり鹿部は農業がない町なので、利活用でコストがかかってしまう。ならなにか違うところで使えないかという部分で、新たな事業をおこしていければと思っています。33の1企業誘致の部分、企業誘致については鹿部で商売をするにあたって、町に来ることによって得られるメリット、ここが重要なのかなど。土地が放大にあるだとか、温泉熱が使えるだとか、そういう部分での魅力を活かせる地域資源、そういうものを表に出さないと企業誘致は非常に難しいのかなど。ただ、出来る範囲で、来ることによってできる支援なり、来たことによってこれは広域的になります、子育ての部分で得られるものだとか、そういうつながりで示せるメリットがあればいろいろと今後の施策に活かして盛り込んでいきたいと思っています。

#### 事務局

委員の意見、提案について全般的にたくさんお話しされていたのですが、次世代を担う後継者だとか、商品開発だとかさまざまなこともそうですが、私冒頭の方で指標を次回の審議会の方に示すよと、項目ごとに載せたものを皆さんに出すということでご説明をしていただきました。当然この指標については、6次計画ですので令和5年から10年間、中間年も入れて、5年後と10年後の指標を考えていまして、皆さんに示すまでには決めたいと思いますが、将来に向けての指標を記載することになります。さきほど委員が言われました、分析部分で過去にこうだったから当然それを読んだ中で目標数値を設定するので、それを踏まえて皆さんの方にお示ししたいと思っています。ただ、指標の目標が次回会議した時に、その設定は違うだろうという部分について、指摘していただければと思いますので、どうぞご理解願います。全般的いろいろあるのですが、文言の部分を追加することについては、施策の部分と課題等記載できるところは持ち帰って各課と調整して修正したいと思っています。修正したものを次回の審議会で提示したいと思っていますのでよりしくお願いします。以上です。

#### 事務局

まず、育てる漁業に関しての関係機関との協力についてですけれども、指導所など関係機関との連携を図って進めているところがございます。その取り組みですけれども、ナマコの幼生、マツカワの放流、そういう形でやらせていただいております。次に漁獲物の付加価値の向上の関係ですけれども、衛生管理漁港として鹿部漁港がなっていますので、それを表に出し、漁獲物の活♯セミナーを実施していますの

で、今後販路拡大につながるものとしてやらせていただきたいと思います。あと、次世代を担う後継者の関係ですけれども、若い漁業者が少なくなっているという形ですけれども、話を聞いていると漁師の息子さんとか娘さんが年々継ぐということが少なくなっているという形ですけれども、親御さんたちからしても、今自分がやっているものあまり継がせたくないと思っているという声も聞いています。漁業者の面白さとかそういう形のを今後アピールしていきたいと思いますのでよろしくお願いします。

## 委員

皆さまありがとうございます。1個企業誘致で日本政府が勘違いしているのが、別に企業を誘致する必要はないです。企業を誘致するのはハードルが高いことはよくよく分かっています。私が言っているのは起業家、ベンチャー企業、新しく何か始めたいと思っている人を誘致してください。いわゆるボストン、MITやハーバードがあるボストンは20年以上前から人口の3分の1以上はベンチャー企業出身です。最近だとモデルナというものも作りました。たった数年で世界的なファイザーに並ぶ企業になっているのですが。漁業とかでも同じように、先ほどのパワーカップルの話と同じですが、まずは門戸を開いてきていただいて、大きな企業を誘致するのは大変なので、起業家をぜひ、若い新しいことをやりたい人、地域おこし協力隊でも良いです。行政がサポートしてたくさんの人に来てもらって、そこから水産業だとか鹿部の魅力をたくさん伝えて、よし続けていこう、新しいことやっていこうとかになると思います。そうすることによって、今年は岸田総理が2022年はベンチャー創業の年にすると宣言して考えていますので、ぜひともそれをいち早くやることによって、鹿部町が他の町よりも目立つ、先行していく、ベンチャーは早くやるのがすべてなので、先にやることで非常に目立つ、厚沢部町が留学という言葉を使って、保育園にたくさん人が来たように、新しい言葉やキャッチーな言葉を使うことで鹿部って目立っている、鹿部ってPR出来ている、ここに行ってみようかな、ベンチャー間でこうしてみよう、いいところだな、移住とリモートワークしてみようかな、町に話をしに行ったらウェルカムだよ、良い雰囲気だよってなったら、住んでみようという人たちがたくさん出てくると思うので、大きな企業を誘致するのは非常に大変だし後ろ向きなので彼らは基本的に、ぜひベンチャー企業の人たちとか起業家の方をたくさんたくさんここに呼ぶことで良い町になると思うので、ぜひ大企業ありきではなくて、個人の起業家ありきで今後ご検討していただければと思います。よろしくお願いします。

## 事務局

ありがとうございます。実は、昨日タイムリーに労働のセミナーを開催させていただきまして、今おっしゃっていただいた部分が今後必要になる、そのサイクルを生むことによって惜しみなく技術を提供する、一人の人間が始めたものが町の特産品となり、それを広めていくことが町に外貨を稼ぐ仕組みになるよと、それを良く思ってくれた人が鹿部に移り住むだとか、そういう波及効果を生むというセミナーを受けたばかりでございます。今後このようなことを含めて反映させていきたいと思っています。ありがとうございました。

## 委員

素晴らしい取り組みだと思います。尊敬しています。敬意を称えたいと思いますベンチャーというのは大事だと考えて、それが起爆剤になると考えていますので、日本の政府は中心がベンチャー企業だ



と考えていますので、いち早く地方の町がやることによって、成功事例になりますのでご検討していただければと思います。

(資料1 第6次鹿部町総合計画基本計画(素案)(コミュニティ・行財)について質疑)

#### 委員

ここは私がシンプルに34の2ですけれども、地域おこし協力隊のことが1行しか書いていないことが不満です。教育のところから、地域おこし協力隊はいろいろなところで活動していると述べました。それが外に向かって見えていると、たくさん企画して、最初に言ったとおり日曜日のコンサートで町長も来ていましたが、協力隊がほぼ一人でいくつもの音楽家の方ですとか、金森ホールですとか、主催者とか関係の方と交渉をして開催にこぎつけたという風に聞いております。素晴らしい方がいるので、地域おこし協力隊のことが1行しか書いていないということは軽んじているということなので、私も納得できないので、外から来ている人間からしたら、ぜひそこは真剣に考えていただきたい。先ほども最初に述べましたけれども、一人が失敗したくらいで、自分の子供に対して1回失敗したらやらないのですか。挑戦するなど皆さんは教えるのですか。そのような教育を鹿部町はしているのですか、ととらえかねないので、一人良くない人がいたという噂を聞いていますが、そんなことにめげずに何十人何百人と地域おこし協力隊を集めて、それで失敗しようが90人成功したら大成功だろう、どんな大企業よりも成功確率は高くなるので、そのためにアドバイザーとか知見をいただきたいということであれば喜んで、高貴なる精神のもと自治体に貢献する義務がありますので、協力したいと思っていますので、ぜひその部分真剣にご検討いただいて、次回は資料には何十行と地域おこし協力隊のことが書いていることを期待しています。

#### 事務局

地域おこし協力隊についての意見ということで、企画振興課の方では地域おこし協力隊の募集と活動支援の相対的な事務を企画振興課で行っています。活動については各部署の管轄で分かれて活動されています。今ご指摘のありましたここに載っている部分については、主体的なまちづくり活動の推進ということで協力隊を活用していますと記載しています。委員が冒頭から協力隊が活躍しているということの説明をしていました。記載についてはここだけではなくて他の部分の現状、課題、施策のところでも協力隊のことを記載できるかどうかについては持ち帰って、各課と事務局と調整して載せられる部分を精査して、次回の審議会の中で確認していただきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

#### 委員

61ページです。鹿部の魅力を町内外へというところで、この町はトップの町長自身が良いPRをされていると思うので、これからも町長はどんどん外へ出てPRしていただきたいなと思います。その中で実は私も中古の住宅を見つけて住んでいる人間ですが、結構中古の住宅ありますよね。空き家であるところの活用は難しいと思うのですが、民間の業者と一緒にやるのは難しいとは思いますが、もっともっと力を入れて、聞くところによると何十件も空き家があると聞いているので、それが売れるように、活用されるように役場でも手立てをとっていただければありがたいな。特に一番大きなホテル。ホテルの関係の

ある業者に売れたという連絡が来ていましたよね。ホテルも空き家の1つだと思うので、これが貴重なホテルだと思うので、年数も使えるようなホテルだと思うので、その辺もぜひ頑張ってPRしてほしいなと思います。

#### 事務局

今ありました空き家の活用についてですが、ここの部分では記載していないのですが、31ページの16番、住宅・宅地の方で、この空き家について、うちの町で今年度からですね、廃屋というもう使えないような古い建物を解体する補助制度を創設しております。これについては、危険性があるという部分で、補助金を活用して何とかきれいにしていきたいという風に先行してやらせていただきました。空き家というのは、そこにいくまで何とか使える、活用できるという物件については、現在それをリフォームするだとか、何とか違う方が使って空き家を作らないような施策について、今後人口減対策と合わせてですね、進めていかなければならないということで、ここの中の取り組みの中では、具体的にどういふことをやるかというのは、記載できないのですが、助成とか促進をしていきますということを記載していますのでご理解をお願いします。

#### 委員

一言だけ本当にありがとうございます。私は鹿部に移住してそんなに日は長くないですが、このような場に出させていただくということは非常に感謝していますし、行政の皆さん、ここに参加している委員の皆さんが、非常に真剣に鹿部町の未来のことを考えているってことが伝わってきましたので、考えているだけではだめなので、経営は実行ですので、実際に実行して結果を出していくということが全てですので、行政といえどもほかの町とも、いい意味で協力しながらも競争していかなければいけないと思っていますので、ぜひ素晴らしい結果を一緒に出していきたいと思っていますので、ぜひよろしくをお願いします。本当に今日はいい機会でした。ありがとうございます。

#### 事務局

それでは事務局の方から、その他ということでお話させていただきます。本日のご審議お疲れ様でございました。事務局からは次回の開催の予定について事前に報告したいと思います。今の段階で考えているのが、来年1月の末か遅くても2月の上旬までに、今皆様の方から意見出された部分だとか、ご提案あった部分をこの基本計画の中にどのように盛り込めるか精査して、案を作った時点で開催したいと思います。なるべく年内中に日程を事前にお知らせし、資料についてもできるだけ早く皆様の方に事前にお配りして目を通していただきたいという風に思っておりますので、よろしくをお願いします。

あと、今日たくさんの皆様からご意見、提案ありました。それについては、各策定委員の方はメモを取っておられるということで、戻り次第精査して、計画の方に盛り込む、盛り込めないというのを判断した中で精査します。次回の会で皆様にお示ししますので、よろしくをお願いします。

なお、議事録は、今回で4回目になりますが、この内容については、総合計画が3月末で出来上がる予定ですが、その出来上がった部分をホームページにアップする際に、当然審議会の皆さん残り5回、6回まで予定していますが、その中身をすべてホームページで町外の方にオープンにしていきたいと思っていますので、その辺ご承知願いたいと思います。事務局からは以上です。

3 閉会